

(6) ストック

ア 殺菌剤, イ 殺虫剤

農薬名	成分名	系統名	RAC コード I:殺虫 F:殺菌	適用病虫害名										注意事項
				黒 腐 病	苗 腐 病	菌 核 病	灰 色 か び 病	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ガ	ヨ ト ウ ム シ 類	ハイ マ ダ ラ ノ メイ ガ	ハ ダ ニ 類	ミ カ ン キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ 類	
〈 殺菌剤 〉														
トップジンM水和剤	チオファネートメチル	ペンシノイタゾール	F:1				花							花:【花き類・観葉植物登録】
ポリベリン水和剤	イソキサゾール酢酸塩・ポリキシン	混合剤	F:M07・19			◎	◎							
〈 殺虫剤 〉														
アグリメック	アバメクチン	マクロライト	I:6									花	花	花:【花き類・観葉植物登録】
アニキ乳剤	レピメクチン	マクロライト	I:6						◎					
アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩	マクロライト	I:6						◎	花			花	花:【花き類・観葉植物登録】
オルトラン水和剤	アセフェート	有機リン	I:1B					花	◎	花	◎		花	花:【花き類・観葉植物登録】
オンコル粒剤5	ペンテラカルブ	カーバメート	I:1A						◎				◎	
ガゼット粒剤	カルボスルファン	カーバメート	I:1A						◎					
コテツフロアブル	クロルフェナピル	その他	I:13						◎	◎		◎	◎	
ゼンターリ顆粒水和剤	BT	生物農薬	I:11A						◎					
ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド	混合剤	I:5									花	花	花:【花き類・観葉植物登録】
チェーンアップ顆粒水和剤	BT	生物農薬	I:11A						◎					
トアロー水和剤CT	BT	生物農薬	I:11A						◎					
ノーモルト乳剤	テフルベンスロン	IGR	I:15						◎	花				花:【花き類・観葉植物登録】
バシレックス水和剤	BT	生物農薬	I:11A						◎					
ポリオキシシンAL水溶剤	ポリキシン複合体	抗生物質										花	花	花:【花き類・観葉植物登録】
マブリック水和剤20	フルハネート	ピレスロイド	I:3A						◎					
モスピラン顆粒水溶剤	アセチアミド	ネオニコチノイド	I:4A					◎					◎	

(6) ストック

ア 殺菌剤, イ 殺虫剤

農 薬 名	成 分 名	系 統 名	RAC コード I:殺虫 F:殺菌	適 用 病 害 虫 名										注 意 事 項
				黒 腐 病	苗 腐 病	菌 核 病	灰 色 か び 病	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ガ	ヨ ト ウ ム シ 類	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ ガ	ハ ダ ニ 類	ミ カ ン キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ 類	
< 殺 菌 剤 >														
ト ッ プ ジ ン M 水 和 剤	チオファネートメチル	ペンソ [®] イタゾール	F:1				花							花:【花き類・観葉植物登録】
ポ リ ベ リ ン 水 和 剤	イソクタン酢酸塩・ポリキシン	混合剤	F:M07・19			◎	◎							
< 殺 虫 剤 >														
ア グ リ メ ッ ク	アバ [®] メチン	マクロライト [®]	I:6									花	花	花:【花き類・観葉植物登録】
ア ニ キ 乳 剤	レビ [®] メチン	マクロライト [®]	I:6					◎						
ア フ ェ ー ム 乳 剤	エマメチン安息香酸塩	マクロライト [®]	I:6					◎	花				花	花:【花き類・観葉植物登録】
オ ル ト ラ ン 水 和 剤	アセフェート	有機リン	I:1B				花	◎	花	◎			花	花:【花き類・観葉植物登録】
オ ン コ ル 粒 剤	5 ベンゾ [®] カルブ	カーバメート	I:1A					◎					◎	
ガ ゼ ッ ト 粒 剤	カルボ [®] スルファン	カーバメート	I:1A					◎						
コ テ ッ フ ロ ア ブ ル	クロルフェナピル	その他	I:13					◎	◎		◎	◎		
ゼ ン タ ー リ 顆 粒 水 和 剤	BT	生物農薬	I:11A					◎						
ダ ブ ル シ ュ ー タ ー S E	脂肪酸グリセリド・スピノサト [®]	混合剤	I:5									花	花	花:【花き類・観葉植物登録】
チ ュ ー ン ア ッ プ 顆 粒 水 和 剤	BT	生物農薬	I:11A					◎						
ト ア ロ ー 水 和 剤 C T	BT	生物農薬	I:11A					◎						
ノ ー モ ル ト 乳 剤	テフルベンス [®] ロン	IGR	I:15					◎	花					花:【花き類・観葉植物登録】
バ シ レ ッ ク ス 水 和 剤	BT	生物農薬	I:11A					◎						
ポ リ オ キ シ ン A L 水 溶 剤	ポリキシン複合体	抗生物質										花	花	花:【花き類・観葉植物登録】
マ ブ リ ッ ク 水 和 剤 2 0	フルハ [®] リネート	ピレスロイド [®]	I:3A					◎						
モ ス ピ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤	アセチア [®] リト	ネオニコチノイド [®]	I:4A				◎						◎	

エ 病害虫防除法（ストック）

（ア）菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*

（耕種的防除法）

キクの項参照。

（イ）苗腐病 *Pythium sp.*

（防除のねらい）

土壤が多湿のとき発病しやすい。健全土壤にまきつけることと適正な水分管理を行うことが重要である。

（耕種的防除法）

- （1）排水をよくする。
- （2）健全土壤に植え付ける。

（ウ）黒腐病 *Xanthomonas campestris pv.incanae*

（防除のねらい）

細菌で土壤伝染及び種子伝染をする。本病は薬剤防除のみでは不十分なので、総合的な対策を行う。

（耕種的防除法）

- （1）健全種子を用い、健全土壤に播種・定植する。
- （2）連作を避ける。
- （3）ほ場の排水をよくする。
- （4）発病株を除去する。

（エ）灰色かび病 *Botrytis cinerea*

（防除のねらい）

病原菌は植物被害残渣とともに菌糸や菌核の形で残存し、伝染源となる。育苗期から開花期まで葉・茎・花卉に発病する。換気不良や多湿条件で多発しやすい。

（耕種的防除法）

- （1）排水をよくする。
- （2）換気を十分に図る。
- （3）被害茎葉を除去する。

（オ）モザイク病 TuMV

（防除のねらい）

病原ウイルスはカブモザイクウイルス（TuMV）で、アブラムシ類によって伝搬される。育苗期から生育初期にかけてのアブラムシ防除が重要である。

（耕種的防除法）

- （1）病株は除去・焼却する。
- （2）育苗時は寒冷紗で被覆する。
- （3）病株にふれた手で健全株にふれないようにする。

（カ）アブラムシ類

（防除のねらい）

数種のアブラムシが寄生するが、モモアカアブラムシの発生が多い。

（耕種的防除法）

- （1）施設では寒冷紗、タフベルなどを設置する。
- （2）シルバーマルチ、ミラーマルチを行い、有翅虫の飛来定着を防ぐ。

(キ) コナガ

(防除のねらい)

いずれの作型でも育苗期から開花期まで発生し、春と秋の発生が多いが、ハウス内では冬季でも加害がみられる。周辺のキャベツやダイコンなどのアブラナ科作物、アブラナ科雑草で増殖したものが発生源になっている。

各種薬剤に抵抗性を獲得しているなので、同一系統の薬剤は連用しない。耕種的、物理的対策を併用し、低密度時からの防除を心がける。

(耕種的防除法)

- (1) 照り葉品種より有毛品種での発生が少ないので、多発生地では有毛品種を選ぶ。
- (2) 周辺の発生源は除去する。
- (3) 育苗床、ハウスの換気部には寒冷紗、タフベルを被覆し、成虫の飛来侵入を防ぐ。

(化学的防除法の注意事項)

ストックは薬害が出やすいので高温時には散布しない。

(ク) ハイマダラノメイガ (シンクイムシ)

(防除のねらい)

幼虫が葉をつづり合わせて中にもぐって食害し、芯止まりをひきおこす。夏から初秋にかけて特に高温乾燥年に発生が多い。

(耕種的防除法)

育苗期～生育初期は寒冷紗で被覆する。

(ケ) ネキリムシ類

(防除のねらい)

キクの項参照。